

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市社会教育委員会会議 (第 2 回)		
事務局 (担当課)		生涯学習課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 8 7 (直通)		
開催日時		令和 8 年 7 月 1 4 日 (火) 午後 2 時～午後 4 時		
開催場所		相模原市役所会議室棟 2 階 第 4 会議室		
出席者	委 員	1 2 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	4 人		
公開の可否		☒ 可 ☐ 不可 ☐ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題 等		1 議長あいさつ 2 議題 (1) 研究調査について (2) その他 3 その他		

議 事 の 要 旨

1 議長あいさつ

秦野議長よりあいさつがあった。

議論に先立ち、秦野議長から不登校児童生徒の保護者支援サイト「おや・サポ」の居場所マップの紹介があった。

2 議題

(1) 研究調査について

(秦野議長)

第2回定例会では、研究調査報告書を作成するにあたって、方向性、主要テーマ及び研究調査の方法を定めたい。そこで、資料「今期の研究調査について」のとおり、協議を通じて各委員の意見を取り入れながら、各項目について確定させる。

協議を行うにあたって、資料「中央教育審議会 社会教育の在り方に関する特別部会 答申に向けた骨子」を確認する。骨子では、社会教育が「学びを通じて個人の成長を期するとともに、他者との協働活動を通じて相互のつながり形成していく点に特徴がある」こと、「社会教育の『人づくり』と『つながりづくり』と『地域づくり』の3つの要素が相互に作用し合う」ことなどが書かれている。また、点として各々で活動を行っている社会教育人材をつなぎ、地域全体を俯瞰して連携・調整をする、「地域全体の学びのオーガナイザー」である社会教育主事の配置促進等が明記されている。他にも、若年層を中心に社会教育への関心や参画を広げる工夫、障害のある者や外国人等を含めた社会教育の推進などについて述べられている。

このことも踏まえて、研究調査報告書の方向性は、『公民館を核とした地域づくり』という社会教育を目指す方向性の中で、『こどもとわかものが地域の中で力を発揮できるように、社会教育として何ができるか』を考える」とするのはどうか。

(齊藤(賢)委員)

方向性について、「公民館を核とした地域づくり」ではなく、「学校を核とした地域づくり」に変更するのはどうか。

(秦野議長)

地域学校協働活動はすでに動き出しているため、今から2年後に地域学校協働活動について提言すると、むしろ現場を混乱させてしまうのではないか。「公民館を核とした地域づくり」と「学校を核とした地域づくり」をどのようにつなぐのかを取り扱うことは良いと思う。

(齊藤(賢)委員)

地域学校協働活動の中には、地域の団体もすでに参画しているので、キーワードを要素として取り入れることは良いのではないか。

(秦野議長)

主要テーマとして入れるのではなく、切り口として関連させるのは良いと思う。

(齊藤（賢）委員)

前回の研究調査報告書では、公民館についてまとめたのか。

(秦野議長)

令和5年度は、公民館をテーマに報告書をまとめた。前回の令和7年度研究調査報告書は、次回の研究調査のために、当時の社会教育委員会議で学んだことを第56回関東甲信越社会教育研究大会神奈川大会への参加と研究大会分科会テーマに関連した相模原市内の事例を中心にまとめた。

(伊藤副議長)

地域学校協働活動は学校教育の領域である。地域学校協働活動推進員は、学校に限らず地域も対象として、学校と地域をつなげる役割を担っている。とはいえ、学校教育と社会教育は切り離して考えるという整理を前回の定例会で行ったのではないかな。

(秦野議長)

我々ができるのは学校教育ではなく、社会教育行政に対する提言であるため、社会教育委員としてできる範囲で報告書をまとめたい。

(江藤委員)

学校教育は社会教育には含まれないが、リンクする部分もある。方向性を考えるうえで、公民館活動に絞ることについては、議論の余地があると思う。研究調査に向けた事例収集の中で、国際交流ラウンジ等を挙げさせてもらったこともあり、対象を公民館に絞るべきなのか疑問がある。

(秦野議長)

「公民館を核とした地域づくり」の表現が誤解を招いてしまった。これまで進めてきた、公民館を含む社会教育施設を核とした地域づくりを踏まえて、社会教育は何ができるかを考えたいという意図だった。

(江藤委員)

先ほどの「中央教育審議会 社会教育の在り方に関する特別部会 答申に向けた骨子」にある、「人づくり、地域づくり、つながりづくり」は社会教育の本質である。この文言を方向性に組み込むのはどうか。

(秦野議長)

方向性について、「公民館を核とした地域づくり」という言葉を削除し、『人づくり、地域づくり、つながりづくり』を目指す中で、『こどもとわかものが地域の中で力を発揮できるように、社会教育として何ができるか』を考える」と変更する。

主要テーマについては、「こども・わかものがそれぞれの特性を生かして地域の中で力を発揮できるように社会教育として何ができるか」でよいかな意見をいただきたい。

(小林委員)

方向性については、賛成である。主要テーマについては、「地域の中で」という言葉は必要か。地域以外では発揮できない、という伝わり方になるのではないかな。

(松本委員)

子ども・若者が「力を発揮できるために」という文言についても違和感がある。

(小林委員)

平成15年の研究調査報告書「ふれあうよろこび、学ぶよろこび、生きるよろこび＝地域で輝くこどもたち」と重複する部分もあるのかもしれないが、子どもをテーマとして扱ったことは過去2回ほどしかない。過去の事例も参考にしたい。

また、「力」という文言は、個性などといった注釈をつける必要があるだろう。

(長沢委員)

「力を発揮できるために」という言葉から、「力を発揮させたい」という押し付けのような印象を受ける。子どもの支援に携わる者は、力を発揮させるために支援をしているわけではなく、ありのままを受け入れることが非常に重要だと考えている。そのため、主要テーマは「こども・わかものがありのままでいられ、力を発揮することができる地域であるために」とした方がよいのではないか。

(若林委員)

心理的安全性が子どもにとって非常に重要である。子どもが居場所と思えるような安全な地域であれば、自然と力を発揮できるのではないか。

(田中委員)

若者は何歳までを対象とするのか。一般的には大学生までだが、地域の中で孤立している若い親世代なども対象とするのか気になる。「地域」という言葉も人によって色々な解釈ができる。他の委員の事例集からは、居場所づくりに力を入れている団体が多い印象を受けるため、まずは地域の受容力を高め、力はそのあと発揮するイメージの方が良いのではないか。

(齊藤（賢）委員)

子どもと若者を対象とするならば、子ども・若者未来局の定義と整合性をとる必要があるのではないか。

(雨宮委員)

子ども・若者未来局では、18歳くらいまでを対象としている。しかし、子どもの定義はかなり曖昧になっているため、社会教育委員の中で定めておく方がよいと思う。ユースワークにおける若者の定義は、30歳未満までを対象としており、参考となる。

(秦野議長)

子どもと若者の定義については、報告書を作成する議論の中で明確にしていく。

(齊藤（賢）委員)

主要テーマは、「こども・わかものが力を発揮できる地域づくりに、相模原の社会教育として何ができるか」と変更するのはどうか。

(江藤委員)

テーマの対象を子どもと若者に絞った経緯を教えてください。

(秦野議長)

前回の定例会において、次世代がどのように生き生きと地域の中で暮らしていくかということに委員の関心が強い印象があった。前々回の定例会で話し合った際も、全てのグループが子どもや若者についての話し合っていたため、対象とすることになった。

(江藤委員)

「中央教育審議会 社会教育の在り方に関する特別部会 答申に向けた骨子」にある、「共生社会実現のための社会教育」という要素もテーマに入れると良いのではないか。

(若林委員)

相模原市が、「共にささえあい生きる社会」をキャッチフレーズとして各種事業を推進することについて発表をしていることもあり、入れた方がよいと思う。

(秦野議長)

共生社会、心理的安全性及び共にささえあい生きる社会という言葉キーワードとして、研究調査報告書を作成する。共生社会という言葉は、障がい者や外国籍市民を含めることとしたい。

前回の宿題として集めた事例を見ると、各委員が参画している色々な団体の多岐にわたる事例を知ることができる。集まった事例は、子どもが主体的に取り組んでいるものと、大人が場を設定して子どもを見守るものに分けられる。年齢としては、乳幼児から若い大人まで対象としている。

(本橋委員)

ユニコムプラザさがみはらによる大学地域連携支援（橋渡し）の事例は、参考になると思う。「こども・わかものがあるのままでいられ、力を発揮することができる地域づくり」というテーマを達成するにあたって、人材育成は重要である。社会教育士のコーディネートの手法を考えることができたらいと思う。

(秦野議長)

第1回定例会においても、地域における活動を結びつけるためのプラットフォームやネットワークがないという声は上がっていたため、そうした意見は重要である。

(江藤委員)

研究調査の方法として、①事例収集、②提案、③提案を受けて試験的な活動の実施という流れは良い。①の事例収集は、各委員の事例集や思いを複合的に話してみると面白いと思う。②の提案については、①事例収集における共通項を探し、キーワードを丁寧に拾ったうえで進めると良いと思う。

(秦野議長)

これまでの議論を踏まえて、分からない点等の意見があれば発言していただきたい。

(井上委員)

私自身がもう少し社会教育について勉強する必要があると感じた。

（秦野議長）

我々がひとりよがりにはやっていくのではなく、分からないことをどんどん言ってもらえた方が、よりよい研究になると思う。

（松本委員）

P T Aとして学校で活動してきたので、社会教育についてはわからない部分が多い。保護者は余計にわからないと思う。相手に伝わるような報告書にすべきである。

（齊藤（賢）委員）

子どもを取り巻く課題として、最も話題となっているのは不登校についての問題である。不登校に絞って事例を収集し、視察を行うのも良いと思う。

（秦野議長）

学校には居場所があるが、逆に長期休みや放課後に居場所のない子どももいる。共生社会というキーワードにもあるように、社会教育として、テーマは広い方が良いのではないか。

（田中委員）

焦点を絞りすぎると社会教育委員という活動から逸れてしまうこともあると思うので、不登校の事例は一例として挙げると言うことが良いと思う。事例収集については、「現場の視察を交えて」行うという点には賛成である。

（雨宮委員）

そもそもありのままでいられず力を発揮できない地域であることを前提とするならば、その原因を解明する必要がある。その原因の一つとして、不登校などの問題も挙げられる。原因を考えないと、本質的な研究調査にはならないと思う。

（齊藤（賢）委員）

個人情報保護法やコロナウイルス感染症を受けて、学校と地域が希薄になっている現状がある。P T Aの解散や登校班の廃止といった課題を差し置いて、他の話題を取り扱うことに疑問がある。

こうした課題の根底には、学校と地域の関係が希薄化していることに原因があると思う。

（秦野議長）

登校班は以前、地域の中で担っていたことだが、あとから学校で組織化された経緯もある。魅力的な地域になれば、学校は協働しやすくなると思う。地域と学校のどちらから強制されて行う、というのは対等ではない。学校の課題だけを見るのではなく、地域の環境変化などにも原因があることを確認できると良い。

（齊藤（賢）委員）

子どもと若者が力を発揮できているという前提ならば、テーマは「より力を発揮する地域づくり」に変更すべきではないか。

(雨宮委員)

少なくとも、ありのままでいられない社会であることは明らかである。

(秦野議長)

研究調査を進める中で、細かい文言について定めたいと思う。現場の視察や公民館へのヒアリングを行いながら、現状を明らかに出来ると良い。

(事務局)

必要に応じて、公民館支援班ともヒアリングについて調整する。公民館の会議に参加するにあたって、ヒアリングの経緯等を説明できるようにしていただきたい。

(伊藤副議長)

公民館の会議は住民を中心に行っているものなので、視点が違うかもしれない。公民館職員が約3年で異動等することもあり、公民館事業の主体は地元住民である。

(秦野議長)

子どもと若者が主体となる事業だけではなく、大人が企画し、子どもを支援する事業も対象としたい。もし公民館の視察を行うのであれば、段取りを決めておく。

(伊藤副議長)

色んな社会教育施設があるので、公民館にこだわらなくても良いのではないかな。

(秦野議長)

公民館の求める情報などが知れたらよいと思う。実際に、ありのままでいられない・力を発揮できていない現状を深掘りしないと、ヒアリングをしても内容が浅くなってしまうのではないかな。現状における課題の部分については、委員の考えや思いをまとめることを宿題にしたい。

(井上委員)

大人の考えで議論しているが、子どもは自分で考えて成長する生き物である。大人が手取り足取り強制するのではなく、子どもの自然な成長に委ねることも大切である。もっと広い視野をもって子供を信じ、「不登校」などでラベリングをして抑え込むのではなく、受容してあげることが重要なのではないかな。

(雨宮委員)

大人が子どもを受け入れる余裕がないのかもしれない。色眼鏡で子どもを見てしまっているから、子どもが生きづらいのだと思う。

(長沢委員)

スマホの与える影響が大きいと思う。AIの登場によって、AIの言うことが絶対になっている。

(若林委員)

子どもを思い通りに育てたいという気持ちが強く、子どもをありのままに受け入れられていない大人が多い印象がある。

(秦野議長)

次回定例会に向けて、今お話しいただいたような、子どもと若者を取り巻く課題などについてまとめてきてもらいたい。

(江藤委員)

目的を定めず、ネガティブな情報のみを集めても意味がないのではないか。

(秦野議長)

情報を集めることで、理想となる地域が見えくると思う。

(伊藤副議長)

ポジティブに考えられるものをどんどん挙げていくのがよいのではないか。

(秦野議長)

ネガティブな部分に対して、どのようになってほしいかというポジティブなこともまとめられるように資料を作成したい。

(雨宮委員)

現状を理解し、社会教育にできることは何かを考えることは、テーマが偏ることもなくなり良いと思う。客観的なデータもあると良い。

(長沢委員)

各自で考えるより、子ども・若者がありのままでいられない、力を発揮できない現状について、原因や理想の地域を委員同士で話し合うことで、意見の偏りをなくせるのではないか。

(秦野議長)

各委員の意見から、宿題ではなく次回の定例会にてカードで分類するなど対話形式で協議したいと思う。

(江藤委員)

各委員が参画している団体において行っているアンケートなど、課題の原因に関する情報収集を宿題とし、それをもとに協議するのが良いと思う。

(秦野議長)

次回までに、子どもがありのままでいられない、力を発揮できていないことについて、各々が具体的な現状や原因を整理し、根拠となる資料やアンケートを収集してもらう。また、研究調査の段取り等を事務局と整理し、委員にメールで送付する。視察については、次の定例会で整理する。

(2) その他

議事なし。

3 その他

(事務局)

令和8年度神奈川県社会教育委員連絡協議会総会資料及び地区研究会の紹介

令和8年度全国社会教育委員連合表彰被表彰者について共有

図書館協議会の委員の選出

以上で、社会教育委員会議第2回定例会を終了する。

伊藤副議長の挨拶で会議を終了した。

以 上

令和8年度 第2回社会教育委員会議定例会出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	田中 穰一	相模原市立小学校長会		出席
2	井上 邦子	相模原市文化協会		出席
3	松本 公美	相模原市P T A連絡協議会		出席
4	伊藤 孝久	相模原市公民館連絡協議会	副議長	出席
5	齊藤 賢一	相模原市 子ども会育成連絡協議会		出席
6	長沢 亜希子	こみかる・きっず相模原		出席
7	若林 由美	一般社団法人 こども家族早期発達支援学会		出席
8	江藤 佑	学識経験者（桜美林大学特任講師）		出席
9	秦野 玲子	R E L e a r n i n g代表	議長	出席
10	本橋 明彦	学識経験者（相模女子大学常務理事（総務担当理事））		出席
11	小林 政美	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら		出席
12	齊藤 信	公募		欠席
13	小杉 美智子	公募		欠席
14	雨宮 健一郎	特定非営利活動法人 文化学習協同ネットワーク		出席